



第10号
昭和51年5月1日
社団法人
上田高等学校同窓会
印刷所
田辺印刷株式会社

校舎改築は現地で

四年計画が始まる

昨年六月三十日上田高等学校の柳沢同窓会長、柳沢PTA会長、柳沢校長の三名が長野県に対し正式に校舎改築を現地で行われたと陳情し、七月十日県教育委員会が改築に乗り出し打合会を開き、以後ボリングクによる地質調査、学校周辺の土地家屋所有者居住者調査、電波障害予測調査、日照調査を実施し、十一月五日アレハブ教室棟の入札、十二月二十六日第一期工事の入札が行われた。

部に建設し、最後に体育館、格技室が南側に建設される予定で、永年の懸案が解決の軌道に乗った。昨年来県と交渉を続けていた上田公園西にある旧馬場の跡地を第二グラウンドとして購入する件は昨年十一月三十日解決し、今後に整地事業が残されている。

昭和五十一年度総会開催

小山敬三画伯の講演会

第一期工事は北側の校舎を取り壊し四階建八教室を建設し、第二期工事(五十一年度)は第一期工事八教室を西側に延長し十六教室を建設する予定である。

昭和五十一年上田高等学校同窓会総会は来る五月三十日(日曜)午後一時より同窓会館で行なわれる。当日は昭和五十年度事業報告並に歳入歳出決算の承認、昭和五十一年度の事業計画並に歳入歳出予算の承認、五十年度奨学資金会計の承認等の議案議決前に文化勲章を受賞された小山敬三画伯(第14期卒業)の講演会を開催する。小山画伯は芸術院会員で、神奈川茅

同窓会創立五十周年

祝賀会は盛大に開催

昭和五十年は同窓会創立五十周年に当たったので、五十年度総会を兼ねて同窓会創立五十周年祝賀会が五月十七日同窓会館で開催され、関東支部を始め、全国各地より三百名が参加した。上田高校音楽部生徒の賛助演奏があり盛大に挙行された。

東洋信託返還始まる

再募集をお願いします

同窓会館を維持するために、故勝俣松先生が維持会員制度を提案願う。当日提案される五十一年度の歳入予算は三百六十五万四千円である。本年度は新入学生の入会費は五百円値上をして二千五百円になったが、この合計額は七十六万円に過ぎないため、同窓会館を維持するために同窓生維持会員になって戴くより以外に途がない。維持会費は従前五百円であったが今年から一千円に変更、従って東洋信託券一万円を二万円と変更することになった。東洋信託の投資信託は五年間据置き、毎年利子の中より維持会費が会社より本会へ払込まれ、期間満了の節は元金と残余利子がお手元に届く仕組みである。

荻原先生の睡蓮

戦前上田中学に於いて水彩画教師として、十年前後教鞭をとられ「モルモット」のニックネームで生徒から敬愛されていた荻原実先生は戦後東京上野高女に勤務され、其の後水彩画界の重鎮として活躍され、一水会会員の最右翼として有名であった。

昨年小林郷司氏(40)が小平市荻山の荻原先生の未亡人さくさんを訪問され、先生の作品「睡蓮」を上田高校同窓会本部に御寄贈を戴くこととなり、同窓会関東支部で額縁代金、運賃を負担し、関東支部名で本会へ贈呈することになった。

住所変更通知を

御住所、又は勤務先を変更になった場合は必ず御連絡下さい。名簿を訂正します。郵便番号386上田市大手町1丁目9番8号上田高校同窓会宛

地域に職場に 奉仕する
折詰・盛込・すし等
御利用下さい
上田市秋和945番地
東信福祉事業協同組合 TEL 22-2155

校舎改築に着手

同窓会理事長 柳沢文秋

昭和四十五年十月十八日母校創立七十周年祝賀会に於いて記念事業として、名簿作成、校舎改築が決議された。この決議によって、同窓会理事会は現在地の校地面積が同窓会館、堀まで含め、一万一千坪しかないのに、広大な敷地に移転改築をする方針を決定し、塩田平から塩尻、染谷台地の各地を視察し、最終的に染谷台で園分寺の北側三万坪の敷地に移転改築を計画し、県教育委員会の了解の下に土地購入の交渉を当時の小山市長にお願いした。しかし最終段階で県教育委員会が高校敷地は一万六千坪の購入に止めると申入れてきたので、移転計画を中止し、止むを得ず現地改築と決定し、県が示した二万六千坪校地に比較し上田高校敷地は狭少であるとして第二グラウンド購入を陳情し、諏訪部地区に敷地を定めて交渉したがこれも最終段階で挫折し、一昨年からより市公園球場の西側に敷地購入計画を樹立し、昨年十二月代金の支払が完了した。

グラウンド土地購入の目処がついた昨年六月P・T・Aと学校と協力して、校舎改築の陳情に乗り出した。校舎改築の陳情が遅れたのは二兎を追う者が一兎を得ずの格言により第一段階として、グラウンド購入を目標に置いていたからである。幸い陳情が採用され、五十年

を初年度として四カ年計画で校舎改築が行われることになり、一月三十一日地鎮祭が行われ、北側校舎を解体し、四階建、建築面積六四一・二五㎡、延二五五〇㎡の校舎が出来上る。五十年分はこの中の四分の一である。更に管理棟から、講堂迄改築が年次的に行わ

春休みの校長室にて

学校長 柳沢恒夫

五〇年度の学校行事もすべて終つて、春休みに入っている。学校は生徒の姿も殆どなく、少数の職員が登校しているだけで、校内は静かである。忙しかった毎日であったが、一年が終つてホッとした気持ちである。

これで本校の長い歴史に一年が加わった訳であるが、この一年は果して前進の年であったのかどうか、こんな反省が頭の中を横切る。クラブ活動もよい成果を挙げ、剣道部がテレビで紹介もされた。進学の成績も現在まででは昨年より劣らない。一応評価のできる年であったと思う反面、生徒の生活行動や学習意欲の点で、問題がないでもなかった。然し学校全体の雰囲気はこれまでと変らない。生徒達はこの雰囲気にとけ込んでいるようだ。それにしても現状に安住しては行かない。より前進するに

れる予定である。このために会員の皆様から同窓会は何時から寄附金を募集するかと、私の顔を見ると御問合せになる。有難いことである。現在は石油ショックを受けて不況の時代であるので、募金は校舎改築の最終段階で行いたいと考えている。又同窓会館も本年二月塗装工事をしたが屋根を始めかなりの部分に大修理を要する所があるので、改築と併せて募金をしたい。その節は御協力を賜りたい。

二十年ぶりの再会に歓喜

第五十三期同期会

紺青の空と境に実った稲穂に秋色を感じる十月四日、上田松尾高等学校第五十三期生の卒業、十周年記念同期会が、上田市内、ささや(米津福一君・四組)で同期生の二十年ぶりの再会をした。

この記念同期会は地元在住の瀬下司君(六組)ら実行委員の奔走によって推進し、この日の為に東京より須田君(一組)ら二十数名と県内、地元合せて百余名が参集した。それに、当時、各組の担任恩師や教科担当の旧師にも参加を願った。山極真平先生はじめ七名の先生にはご多忙のところを息災なく参集していただきました。同期会は懐しい校歌の斉唱に始まり五名の鬼籍入りした盟友、五名の他界された恩師に過ぎし日の慕情にしたりつ、ご冥福を祈った。会は久保田(六組)アナウンサーの高邁かつ司会で、終始賑々しく整然と進められ、互いに母校卒業来二十一年の邂逅に、話題がはずみ、限りなき喜びと感激に、しばし、あの若き青年当時の心境に帰して、三時間余の歓談に喜色漲った。

剩えエレクトーンの奏音に叶奏した舞踊もつくられた。また会中の途中、恩師全員壇上に運んでいただき、おひとりづつ当時の回想や感想など諧謔混りに述べていただいた。その談話に全員が真摯に傾聴したり、爆笑もしたり、上品な弥次をとばして、同期会に歓喜の花を咲かせていただいた。

当日、参加者一同による格段のご芳志によって十一万余円が収束され、母校に記念品を贈呈した。二年後にまた同期会を開催することを約束し合い、名残りつきないうちに終幕となった。地元の苦悶会や実行委員の諸兄に感謝いたし会場にあたたか、ささや、さんにはご迷惑をおかけしたことを、鞠躬如いたして心からお礼を申し上げます。

第二七期卒業同級会近況

会員名簿によれば、昭和元年卒業時に百六十名となつて

上に成果をあげ藍綬褒章を受賞された柳沢文秋君の受賞税を近隣上小関係者有志にて開催したが急なことであったが十八名参加、彼の榮譽を喜び合った。

猶、例会は八月二十四日、公園内富貴にて開催。参加者四十二名遠くは福島県より川上勇君、新潟県より倉沢文夫君参加盛会であった。

祝賀会当日(六月七日)市内万花荘にて三十八名参加、新顔として清水市より島田規矩雄君が見えられた。彼は頭髪こそ白くなつてい

るものの学校時代の童眼、活発ぶり少しも変わったところがない。静岡の新茶など持参して参加者に振舞われた。

一昨年は暮迫る十二月、百万花荘において多年学校保健の普及向

獅子会総会盛会

獅子会総会盛会

昭和五十年四月二十六日別所温泉玉屋旅館(山極先生宅)において五十年度の獅子会総会、四十四期卒、を開催致しました。

上田高校同窓会の一般報告と会計報告を早々に終えて宴会に移り久し振りに再会した諸兄と又卒業以来と云う兄等と酒盃を交し、日頃の酒量はオーバー! 話は何時か残念なことには五十年三月二十八日戸谷三郎君が心筋硬塞で死去されたことである。氏は終戦により松高入学、東北大学工学部、二十七年同大学研究科を経て二十七年工学博士になられた人である。

当会では案内状を発送して二回以上返信のない場合は次からは案内状を出さないことにしている。当番の意を体し案内があったら出席することに意義を見出してお差練の上ご参加いただきたい。本年度は、東部町の皆さんの当番で開催されることを申し添えます。(西沢聡一郎記)

三十余年前にさかのぼり、今思えば無茶苦茶であった青春が楽しくも又なつかしく話はずきずき、時のたつのも忘れた一夜でありました。何時ものことながら校歌、応援歌の斉唱は天井も破れんばかりの大声です。初老を前にした男共とは思えません。獅子会諸兄此の分では長生き間違いなし。お互いに再会を約し、今後の健康を誓い合つて別れを惜しみ習日朝食後解散しました。次期総会も開催予定です。多数参加をお願いします。

残念なことには五十年三月二十八日戸谷三郎君が心筋硬塞で死去されたことである。氏は終戦により松高入学、東北大学工学部、二十七年同大学研究科を経て二十七年工学博士になられた人である。

さあ大変 こんな時直ぐお電話下さい。

時 出た時 話した時 赤水から 流し、下水等 冷水、給湯

小林化学機材(株)

小林 裕 司 (55)

TEL (23)2918

上田市緑が丘3-21-1

去年三月に同窓会長野支部が、結成され、この日総会終了後、有志からの発言あり、会員和田嘉夫君を異議候補として推薦しようとの話が、その場で決まり、そんなことで大方の諸君が、熱心な応援をした模様でした。

長野市支部からの便り

橋詰 英雄(24)

御家族一同の手厚い御看護のかいなく、去年十一月十日、何の苦痛もなく、全く安らかに御逝去されました。謹んで御冥福をお祈り申し上げます。素晴らしい会員とおるさんを失ったことは、なんとしても、残念の極みです。

去年三月に同窓会長野支部が、結成され、この日総会終了後、有志からの発言あり、会員和田嘉夫君を異議候補として推薦しようとの話が、その場で決まり、そんなことで大方の諸君が、熱心な応援をした模様でした。

二十四期は田沢で

三十一名が出席

上中二十四期生同級会は、去る六月七日上田同窓会創立五十周年記念祝賀式を機に、上田市郊外の田沢温泉富士屋ホテルで開いた。昨年、箱根小涌園での卒業五十周年同窓会で、「来年は郷里で開きたい」との要望に加え、見事な級友名簿ができたので、開催の運びになったもの。

この日、顔を見せた古稀近い同級の桜は、三十二名にも達し、なかなか盛会だった。

さて、支部便りのお知らせは先ず会員名簿の作成が第一と云うことで、幹事会を開くこと二回。大仕事であるから幹事の他に、卒業年次区分による、担当者を約十名

程お願いして、手をつけることにした。この間四ヶ月、木内吉弘、同保科国泰の有力幹事の転任でこの補充のことや、名簿作成委員のお願いのごことでごたつき申訳ない。

二名簿の出来た頃に本部と連絡を持って大総会を開催する等の話し合いも行われている。

（二）支部結成当日、発起人でもあり、同窓生の数多い人々からの信望の厚い先輩南沢氏のことだか

（一）名簿の出来た頃に本部と連絡を持って大総会を開催する等の話し合いも行われている。

まず、記念撮影をすませ、宴会場に移り、物故者へ黙禱をささげたあと、斉藤君が同窓会祝賀式の模様を報告、続いて級友名簿を編集した箱山君に対し、拍手してその労苦をねぎらった。

翌日はホテルの好意によるマイクロバスに送られ、上田駅前で解散した。

また、当日不参加の土屋、前島両君の祝電を披露、八木君の短冊十枚の寄贈が行われ、新村君の音頭で乾杯、宴に入った。

また、当日不参加の土屋、前島両君の祝電を披露、八木君の短冊十枚の寄贈が行われ、新村君の音頭で乾杯、宴に入った。

また、当日不参加の土屋、前島両君の祝電を披露、八木君の短冊十枚の寄贈が行われ、新村君の音頭で乾杯、宴に入った。

また、当日不参加の土屋、前島両君の祝電を披露、八木君の短冊十枚の寄贈が行われ、新村君の音頭で乾杯、宴に入った。

また、当日不参加の土屋、前島両君の祝電を披露、八木君の短冊十枚の寄贈が行われ、新村君の音頭で乾杯、宴に入った。

また、当日不参加の土屋、前島両君の祝電を披露、八木君の短冊十枚の寄贈が行われ、新村君の音頭で乾杯、宴に入った。

48期会合開く

上田公園内富貴にて

秋玲臚の空に立つ太郎山を望みつつ、四八回卒業生の同窓会は昭和五十年九月二十日、上田公園内富貴にて開かれた。幹事諸兄の努力で四八回生は隔年に会合を開いている。この卒業生は、太平洋戦争の敗色濃き昭和十九年に二百五十名で上田中学に入學し、戦争の体験も若干して敗戦を迎え、昭和二年

十五年外地より引揚げて来た友などを加え三百六十五名で卒業した。大半の者は古城の門を六年間くぐり青春のかなりをこのときをこえて過した。友情のきずなは厚く、まれば互いに昔に戻り旧交を暖めるのである。そしてこの上田付近には百名余もどまると、この地方の中堅として活躍している。上田市の議員の小山正俊君はこのよ

秋玲臚の空に立つ太郎山を望みつつ、四八回卒業生の同窓会は昭和五十年九月二十日、上田公園内富貴にて開かれた。幹事諸兄の努力で四八回生は隔年に会合を開いている。この卒業生は、太平洋戦争の敗色濃き昭和十九年に二百五十名で上田中学に入學し、戦争の体験も若干して敗戦を迎え、昭和二年

株式会社

藤 森 組

上田市大字大屋 392-4 TEL(35)0310 代表

代表取締役 藤 森 藤之助(37回卒)
専務取締役 藤 森 富 男(40回卒)

祝 上中第二十四期満五十周年同級会
昭和五十年六月七日
於田沢温泉富士屋ホテル

出席者次の通り。
石川秀敏、岡田良夫、大野信己、大沢幸三郎、笠原明義、笠原正己、榎山欽四郎、掛川彦次郎、小長谷清、小林忠義、小林真澄、小平守、齊藤佐五兵衛、清水進、新村一夫、滝沢中、田中鋭一、玉井帯刀、南条泰三、橋詰六郎、宮下哲之助

出席者次の通り。
石川秀敏、岡田良夫、大野信己、大沢幸三郎、笠原明義、笠原正己、榎山欽四郎、掛川彦次郎、小長谷清、小林忠義、小林真澄、小平守、齊藤佐五兵衛、清水進、新村一夫、滝沢中、田中鋭一、玉井帯刀、南条泰三、橋詰六郎、宮下哲之助

柔道の依田先生がお年を召されたにもかわらず、参会者一同厳しき先生の教育を思い出しつつ畏敬の念を抱いた。会の途中かつての柔道部のものは先生を囲み高らかに柔道部の歌を歌い先生も満足げであった。体育の宮坂仁吾先生、生物の齊藤先生、英語の中村六男先生、国語の竹内敬太郎先生と山極真平先生は相変らずお元気なお姿を見せられ参会者一同諸先生を囲み種々話はつきなかつた。歴史の町田太郎先生が久し振りに見られて先生自作の応援歌「伝統の花俵」と、先生のタクトにより歌った。また数学の高柳厚先生はは芸達者でおられ、民謡による踊りを披露された。

集えるものは上田市付近のものが多かつたが遠方よりも数名参じてくれた。しばしば会を開いてもこれまで都合で出席できず、卒業後初めての友も数人あり、元氣な姿になつたかしの声をあげた。現在社会の中堅として仕事の上でもお互いに連絡し合うことも多く話はずんだ。従事している職業が農業、商業、医者、銀行マン、政治家、会社員、教師と多形である。

会の終わりに校歌秋玲臚の空高く...を高らかに歌い、次回までの健闘を念じつつ散会した。

上田高校同窓会 関東支部の現況報告

(その3)

母校上田高校同窓会の本部で発行されている「同窓会報」に、年々、こちら関東支部の現況をおつたえすべき義務を負われ、本年で三年目の寄稿である。

関東支部の現況報告(その三)としてペンをとらせていただく次第である。

◎関東支部大会について
現在、関東支部会員数は約三千名、各期の同期会もそれぞれに、盛會に開催されている。

これを一九とした上田高校同窓会「関東支部大会」も毎年六月に盛大に開催されてきており、本年も来る六月二十八日(月)午後六時から、東京港区、芝西久保巴町にある「農林年金会館」で開催されること決定している。

◎支部会報「うた」について
六月末に開催される第十五回の支部大会と、奇しくも同じ回を数える関東支部の会報「うた」の、第十五号が、六月上旬に発行される。年一回春秋に発行してきたが既に九七年の歳月を経た。

一回の休刊もなく、よくぞ、続かしものかなと、その第十五号を発行せんと編集にとりかかりつつある今日、感慨一入と深いものがある。発行部数は一回毎に六十部。

◎新幹事と役員幹事の改選
報告が前後したきらいもあるが本年のこの三月で、支部長以下全役員幹事も、過去二ヶ年間の任期が満了となり、改選される。

既に、各期より新幹事を推せんされ、来る四月九日(月)午後六時から「新幹事会」が開催され、その席で新支部長始め新役員幹事も互選される。各期を代表する新幹事の総人員は一六一名である。

◎支部会報「うた」について
六月末に開催される第十五回の支部大会と、奇しくも同じ回を数える関東支部の会報「うた」の、第十五号が、六月上旬に発行される。年一回春秋に発行してきたが既に九七年の歳月を経た。

一回の休刊もなく、よくぞ、続かしものかなと、その第十五号を発行せんと編集にとりかかりつつある今日、感慨一入と深いものがある。発行部数は一回毎に六十部。

◎支部会報「うた」について
六月末に開催される第十五回の支部大会と、奇しくも同じ回を数える関東支部の会報「うた」の、第十五号が、六月上旬に発行される。年一回春秋に発行してきたが既に九七年の歳月を経た。

一回の休刊もなく、よくぞ、続かしものかなと、その第十五号を発行せんと編集にとりかかりつつある今日、感慨一入と深いものがある。発行部数は一回毎に六十部。

が満了となり、改選される。既に、各期より新幹事を推せんされ、来る四月九日(月)午後六時から「新幹事会」が開催され、その席で新支部長始め新役員幹事も互選される。各期を代表する新幹事の総人員は一六一名である。

◎支部会報「うた」について
六月末に開催される第十五回の支部大会と、奇しくも同じ回を数える関東支部の会報「うた」の、第十五号が、六月上旬に発行される。年一回春秋に発行してきたが既に九七年の歳月を経た。

一回の休刊もなく、よくぞ、続かしものかなと、その第十五号を発行せんと編集にとりかかりつつある今日、感慨一入と深いものがある。発行部数は一回毎に六十部。

心感も大なるものがある。守りませ我等の会報を、と祈る心切。

◎支部会員名簿の発行
関東支部会員の名簿は、過去に於いて、第一回目発行が昭和三十四年四月、第二回目発行は四十二年五月であった。本年で既に八ヶ年の歳月が流れている。

しかし先年四十七年一月に、同窓会の本部において、すばらしい同窓会名簿が発行されたので、関東支部名簿の作成は、しばし見送りの形とした。

そして、あれから四年、関東支部会員の名簿を望む声も高まり、またその必要性にもせまれ、いよいよ第三回目の発行にふみ切り

本春五月下旬には実現すべく、既に資料は整い、その印刷校正にも大わらわの最近である。

会員諸兄のために、各期代表各幹事諸氏の御協力を得て、順調に遂行しつつある。

結び
以上主なる点について、その大要を簡述申し上げてきたが、総体から関東支部のめざましい発展と団結をくみとっていただけたら幸いです。

同窓会本部の絶えざる御努力と御尽力に深識しつつ、本部の御活躍に、更に関東支部会員一同も御期待申し上げ、関東支部現況の御報告の結びとさせていただきます。
(幹事 矢島五郎記)

昭和五十年十一月三日文化の日、文化勲章の受章者は、学問・芸術界の五人名であった。今迄文化勲章なるものに、さほど、関心の持合せがなかった私も、第十四回卒の同級生として、小山画伯の画業を今又更に高く評価し、今日迄に文化勲章を受けた人々を数えてもみた。昭和十二年を第一回とするから、それ以前の人々にはない筈だ。幸田露伴、柳田国男、画家としては横山大観、呉人では岩波茂雄其の他は知らない程の少数者、又は「一國文化への貢献者」にみ与えられるものである。東大教

功績者の出現を祈り、幾多の卒業者のうちから受章者の出ることを一國の文化発展の爲めに希うのである。

小山画伯は中学(今の高校)一、二年頃から既に傑出した作品を描いている。私なども一所に描いた覚えがあるが、到底及ばない水彩を描いていた。三、四年からは油彩もやった。画伯は小諸市小山久左衛門氏の三男に生れた。誰も知る邦太郎氏の弟である。一人の姉(長女)があるが、この仁は小諸義塾で島崎藤村の教えを受けた。画伯は厳父が小諸義塾のスポンサーであったり、姉様が塾生だった関係から、藤村先生には子供の頃可愛がられた話をしたことがある。大正四年三月上田中学を卒業、慶応大学予科に入学、これは画伯の志ではない。従って講義も身に入らないので、講師の似顔をつまたくスケッチしては、学友に廻して笑わせたりしたとか。大正五年六月同大学予科をあっさり中退、絵を生涯の仕事とすべしことを父に訴え、念願を果した。川端画学校で藤島武二の教えを受けた。この父は上は純水館という製糸をやっていた社長で、片倉や群是などという会社と拮抗して、製糸業を大胆に経営した人、二十歳で家督相続をして、まもなく京都に漢学の勉強に行った。漢学の先生が、下鴨神社の宮司田村知興さん、この方の親友が有名な日本画家富岡鉄斎であった。画伯の父は鉄斎を紹介された。父は「それはど心配されるなら一生僕を食わせて下さい。画家で飯が食えるかどうか判らないが、

辺倒に打ち込んでしまった。鉄斎という人ははじめ維新の志士を志したが、生来の難聴で志士として同士として、同士の密議が出来ないことを知り、中国の蘇東坡位になろうと志した漢学者である。その傍ら絵が趣味で十六歳の頃から、九十歳近くまで描いた。自由闊達な画風で、しかも最上級の日本画家であった。鉄斎の大小の絵を家宝に、あの位持っている家はこの辺には一寸ないだろう。画伯は嘗て語ったことがある。「僕は生れるや、家に鉄斎の絵がいろいろあったので、その影響を受けているよ」と。画伯の絵には自由奔放といった感じのものはないと思うが、何か膚で鉄斎と通じているようなところもある。素人観であるが、白鷺城シリーズや、浅間山シリーズの線描などにそれを感ずる。

画伯は大正七年二十一歳にして第五回二科展に、また再興日本美術院第五回展に初入選している。天才が然らしめたというべきだ。そして大正九年二十三歳で渡仏留学の途についた。渡仏の決意には島崎藤村の助言と激励とが、力をなしていることは、大方の識るところ。はじめ父には絶対反対された。しかし、男子二十三歳だ。それに負けない気骨を持っていた。父と議論した。絵は趣味でよし、決して米塩の資にかえる勿れ」と。父は厳しかった。敬三青年は必死だった。「それはど心配されるなら一生僕を食わせて下さい。画家で飯が食えるかどうか判らないが、

一生自分の絵を懸命に描くから、許していただきたい」と言った。「そういう考えなら事業をするのも同じことだ。やって見ろ」ということになった。島崎藤村にも、どうせやめろと説教されるのを覚悟で、画家志望を告げると「そりや結構」と賛成され、美術学校へは行きたくない、というところも結構。山本鼎君も美術教育を脱するのに苦勞している。早くフランスへ行きたまえ」というわけである。

第一次世界大戦の終るのを待つて、暗いパリ目ざして渡航した。恵まれた境遇ではある。だが、その恵まれたものを、真に生かせるかどうかは、敬三青年に負われた大きな課題であった。彼は日本画学生とおおよそ縁遠い日本人らしく勉強をする。二十三歳で渡仏して、二十五歳でもうサロン・ドートンヌに三つの作品が入選という勢である。二十九歳でサロン・ドートンヌの会員に推されて、本場の画壇で早くも認められたということである。

編集後記
塩沢隆平先輩より小山敬三画伯について御投稿を戴いたが、誌面が少ないので、全文を掲載出来なかつた。それでこの全文は近々発行される関東支部の会報「うた」に御掲載をお願いすることにした。不意御了承願いたい。

各期の集会はその都度当会宛に御報告下さい。会報についての御意見もお寄せ下さい。

小山敬三画伯

同期卒業 塩 沢 隆 平

授を長くやった先生や同級長(学長)をやった先生でも、授けられた人を知らない程である。文化勲章の得難さ、受賞者の文化的功績の抜群でなければならぬことを、本當に今ここで、小山画伯が受けたのを契機に、やっとほんとにえらいことだと解った汪濶さを恥じ入るのである。

本當に、国民最高の榮譽である。やがて八十回の卒業者を世に送る名門などと言われる学校になった一人もなかつたという事実には唯驚きの眼を見はって、将来他の文化的領域にも、このようなすぐれた

授を長くやった先生や同級長(学長)をやった先生でも、授けられた人を知らない程である。文化勲章の得難さ、受賞者の文化的功績の抜群でなければならぬことを、本當に今ここで、小山画伯が受けたのを契機に、やっとほんとにえらいことだと解った汪濶さを恥じ入るのである。

本當に、国民最高の榮譽である。やがて八十回の卒業者を世に送る名門などと言われる学校になった一人もなかつたという事実には唯驚きの眼を見はって、将来他の文化的領域にも、このようなすぐれた

授を長くやった先生や同級長(学長)をやった先生でも、授けられた人を知らない程である。文化勲章の得難さ、受賞者の文化的功績の抜群でなければならぬことを、本當に今ここで、小山画伯が受けたのを契機に、やっとほんとにえらいことだと解った汪濶さを恥じ入るのである。

本當に、国民最高の榮譽である。やがて八十回の卒業者を世に送る名門などと言われる学校になった一人もなかつたという事実には唯驚きの眼を見はって、将来他の文化的領域にも、このようなすぐれた

授を長くやった先生や同級長(学長)をやった先生でも、授けられた人を知らない程である。文化勲章の得難さ、受賞者の文化的功績の抜群でなければならぬことを、本當に今ここで、小山画伯が受けたのを契機に、やっとほんとにえらいことだと解った汪濶さを恥じ入るのである。

本當に、国民最高の榮譽である。やがて八十回の卒業者を世に送る名門などと言われる学校になった一人もなかつたという事実には唯驚きの眼を見はって、将来他の文化的領域にも、このようなすぐれた

授を長くやった先生や同級長(学長)をやった先生でも、授けられた人を知らない程である。文化勲章の得難さ、受賞者の文化的功績の抜群でなければならぬことを、本當に今ここで、小山画伯が受けたのを契機に、やっとほんとにえらいことだと解った汪濶さを恥じ入るのである。

本當に、国民最高の榮譽である。やがて八十回の卒業者を世に送る名門などと言われる学校になった一人もなかつたという事実には唯驚きの眼を見はって、将来他の文化的領域にも、このようなすぐれた